

月曜評論

天安門事件の残像

去る四月廿日の天安門前広場における大衆騒動以来、ちょうど二週間が過ぎた。この間、中国の政治の動きはきまわめて急げ

てはそれが存在したが、しかし「第一副主席」というポストは

付朝刊 述べたので、ここではくりかえさないが、事件の潜在的基盤はたんに北京のみではな

いはりその官製的な色彩をぬぐうたい。

一方、鄧小平氏は、そのしづとい個性と政治生命力を最後まで印象づけた。事件直前におこ

なれた清華大学の糾弾集会では、「ワシは老人で、耳が速

い。君たちがいつていることはとんとわからないよ」と最後まで憤然とした表情で聞く耳を持

までにも実際の政治的序列としてはそれが存在したが、しかし

付朝刊 述べたので、ここではくりかえさないが、事件の潜在的基盤はたんに北京のみではな

いはりその官製的な色彩をぬぐうたい。

一方、鄧小平氏は、そのしづとい個性と政治生命力を最後まで印象づけた。事件直前におこ

なれた清華大学の糾弾集会では、「ワシは老人で、耳が速

い。君たちがいつていることはとんとわからないよ」と最後まで憤然とした表情で聞く耳を持

このように見るならば、鄧小平氏は今回の事件によって政治的にはついに失墜したが、最後まで自己の主張を貫くことよ

去る四月廿日の天安門前広場における大衆騒動以来、ちょうど二週間が過ぎた。この間、中国の政治の動きはきまわめて急げ

てはそれが存在したが、しかし「第一副主席」というポストは

付朝刊 述べたので、ここではくりかえさないが、事件の潜在的基盤はたんに北京のみではな

いはりその官製的な色彩をぬぐうたい。

一方、鄧小平氏は、そのしづとい個性と政治生命力を最後まで印象づけた。事件直前におこ

なれた清華大学の糾弾集会では、「ワシは老人で、耳が速

い。君たちがいつていることはとんとわからないよ」と最後まで憤然とした表情で聞く耳を持



中嶋 嶺雄

毛沢東政治にかわって「豊かさの現実」への道があり得ると、家長的側近政治にかわって政治の公共化が必要であること、「毛沢東思想に自己陶酔する中国のかわりに、近代的な強国としての中国を目指すべきこと」、「隠された中国」から「開かれた中国」への移行が必

かかるといえる。それにしても、今回の天安門事件の真の演出者ははたして誰であったのか。この問いに答えられるまでには、まだまだ時間が

（東大助教）